

## 「神から始まる愛に生きる！」

主任牧師：重田 稔仁

### ＜メッセージ＞

創世記 25 章にはヤコブとその兄エサウがレンズ豆の煮込み一杯と長子の特権を取り引きした様子が描かれています。この出来事から一般的に長子の特権を軽んじたエサウを不品行者と断罪するメッセージを多く耳にしますが、(ヘブル人への手紙 12 章を根拠) そのようなメッセージでエサウの弱みにつけ込んだヤコブの狡猾さを断罪する話は聞いたことがありません。ヤコブは母のお腹にいるときから双子の兄エサウと争い、兄のかかとを掴んで生まれてくるほど好戦的で意地の悪い人物だったにもかかわらずです。

そんな創世記 25 章の物語は、エサウを鱗の魚に不信仰を戒めしているのでしょうか。私は、前回、創世記 25 章は「わたしは自分が憐れもうと思う者を憐れみ、慈しもうと思う者を慈しむ」という神の愛を中心にメッセージしていると申し上げましたが、今朝は前回に引き続き利他的、無条件の神の愛に生きる人の幸いについて創世記 25 章からお話ししていきたいと思います。

### 朗読 <創世記 25 章 27～34 節 新共同訳>

二人の子供は成長して、エサウは巧みな狩人で野の人となったが、ヤコブは穏やかな人で天幕の周りで働くのを常とした。イサクはエサウを愛した。狩りの獲物が好物だったからである。しかし、リベカはヤコブを愛した。ある日のこと、ヤコブが煮物をしていると、エサウが疲れきって野原から帰って来た。エサウはヤコブに言った。

「お願いだ、その赤いもの(アドム)、そこの赤いものを食べさせてほしい。わたしは疲れきっているんだ。」

彼が名をエドムとも呼ばれたのはこのためである。ヤコブは言った。

「まず、お兄さんの長子の権利を譲ってください。」

「ああ、もう死にそうだ。長子の権利などどうでもよい」

とエサウが答えると、ヤコブは言った。

「では、今すぐ誓ってください。」

エサウは誓い、長子の権利をヤコブに譲ってしまった。ヤコブはエサウにパンとレンズ豆の煮物を与えた。エサウは飲み食いしたあげく立ち、去って行った。こうしてエサウは、長子の権利を軽んじた。」

## 本論

ヤコブが兄エサウと取引した長子の特権の中身とその価値とはいかなるものだったのか？

1: 権威的地位 家族、一族の争いごとを収める立場に立つ

2: 2人分の相続

3: 祭祀的役割 他者を執り成し、祝福する

ヤコブとエサウの長子の特権を巡る取引についての疑問

何故、エサウはヤコブに長子の特権を安売りしたのか。(エサウはその価値を知っていたはず。)この問いに答える前にヤコブとエサウの人格、人間性について見てみたいのですが。

ヤコブの人となり

好戦的

策略家

権力志向が強い

偏愛

ヤコブの人格に影響を与えた人物 母リベカ

リベカはアブラハム亡き後、夫イサクがペリシテ人との井戸を巡る争いで苦悩し、理不尽な取り引きを強いらている様を目の当たりにして、夫に頼りなさを感じていたのではないか。

だから、息子ヤコブには自分の利益を自分の知恵と力で獲得できるように教育したのではないか。手段は選ばない。(兄ラバンのように)

エサウの人となり

我関せず おおらか

粗野 野生的で頼り甲斐がある

後先を考える知性が乏しい

エサウの人格形成に主に影響を与えたのは父イサク

イサクは、エサウの単純で逞しい人間性を愛した。イサク自身が気弱な性格だったから。エサウはイサクがそうであったように野心の薄い人間だったと思われます。エサウは、イサクが祖父アブラハムが父にその財産全てを無条件に譲り渡したように自分も父から

譲ってもらえると信じて疑わなかったのではないでしょう。つまりエサウにとって長子の特権は、肉親の父の決済事項に属することだったのです。

**「アブラハムは、全財産をイサクに譲った。側女の子供たちには贈り物を与え、自分が生きている間に、東の方、ケデム地方へ移住させ、息子イサクから遠ざけた。」**

**創世記 25:5-6 新共同訳**

再び、先程の質問

何故、エサウはヤコブに長子の特権を安売りしたのか？

それは彼らの両親イサクとリベカが彼らの子供たちへの神のみ心を知りながらそれを尊ぶことを教えなかったから。

〈主はヤコブが神の祝福を受け継ぐと定めておられた。〉

**「主は彼女に言われた。『二つの国民があなたの胎内に宿っており 二つの民があなたの腹の中で分かれ争っている。一つの民が他の民より強くなり 兄が弟に仕えるようになる。』」**

**創世記 25:23 新共同訳**

以上のエサウとヤコブの長子特権を巡るやり取りを踏まえて、改めて創世記 25 章から私たちが汲み取るべきメッセージとは何か！

それは、主なる神のみ心を尊ぶということです。

〈主なる神のみ心を尊ぶとは！〉

主なる神から始まる愛に生きるということです。すなわち憐もうと思うものを憐み、恵もうと思うものを利他的、無条件に愛する神から始まる愛に生きるということです。

主なる神から始まる愛に生きる時、人は真の意味で自由にされます。

何から自由にされるのか。

それはこの世の条件付きの愛から自由にされます。

条件付きの愛とは…

この世の尺度、基準、価値観による相対的な愛です。この世の相対的な愛に生きる限り人

は他者と争い、勝った負けたを繰り返す真の意味で自らの存在に不安を抱えその人生に安らぎはありません。そのことをヤコブとエサウの物語は示唆しています。

私の証し～主イエスと出会い、父なる神の愛を知って、人生の安らぎを知った。

神の愛は、無条件で絶対的な愛です。

神は無条件に私たちを憐み、恵み、慈しむ方です。神から始まる愛に生きる時、人はそのうちに平和という人生の至福を与えられます。

みなさん、神から始まる愛に生かしていただきませんか。

カラシ種一粒の信仰があれば主イエスがそれを可能にしてください。

祈り

*「わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。」*

ヨハネによる福音書 14:27 新共同訳